

マニラ日本人学校における 「自ら学び、豊かな国際性を身につけた児童」 育成のための実践

前在フィリピン日本国大使館附属マニラ日本人学校 教諭
静岡県浜松市立江南中学校 教諭 亀久保 裕 之

キーワード 国際性、フィリピン、生活科、聴き方・話し方

赴任校の概要（2024年3月31日現在）

学校名・日本語：在フィリピン日本国大使館附属マニラ日本人学校

学校名・現地表記：Manila Japanese School

URL：https://www.mjs.ph/

1 はじめに

マニラ日本人学校はフィリピンのマニラ首都圏に位置する在外教育施設である。よって、日本を離れ海外で生活しながら学校に通っている児童生徒たちは、外国の文化に触れる機会が多いと思われるだろう。しかし、在任中に担当した児童の多くは、フィリピンでの経験が浅く、日本のカリキュラムに沿った教育活動の中で学習し、日本人コミュニティの中で過ごしている。実際にはフィリピンの文化に触れる機会は多くはなく、フィリピンのことを知らないという実態があると感じることが多かった。

マニラ日本人学校では豊かな国際性を身につけるということが研修のテーマに位置付けられていた。国際性とは「自国を理解した上で、他国も理解し、違いや多様性を受け入れて尊重をすることができること」を定義としている。そこで、児童生徒の国際性を養うために、「日本やフィリピンをはじめとする様々な文化に触れる機会を設けたり、他者とのかかわりの中で相手の考えを聞き自分の考えを表現する活動を取り入れたりすることで、豊かな国際性を身につけた児童が育つだろう」という研究仮説を立て実践を行った。以下にその概略を紹介する。

2 実践1 生活科の実践

前述の研究仮説の中の「日本やフィリピンをはじめとする様々な文化に触れる機会を設けたり」の部分においては、生活科の学習での取り組みが有効であると考えた。

(1) フィリピンの遊び

フィリピンで親しまれている遊びをフィリピン人スタッフに紹介してもらい、実際に遊ぶという学習を実践した。単元の流れは以下の通りである。

- 日本で親しまれている遊び（おにごっこ系の遊び、だるまさんが転んだ、ドッジボール、けいどろなど）を体験する。
- フィリピンの遊びを体験する。
- それぞれの遊びを体験して感じたことや思ったことを話し合ったり、日本とフィリピンの遊びを比べたりし

3 実践2 各教科の授業での共通の実践

研究仮説の中の「他者とのかかわりの中で相手の考えを聞き自分の考えを表現する活動を取り入れたりする」の部分においては、様々な教科の授業で取り組むことが可能である。他者理解の視点における国際性を育むためには、相手の話を聴いて思いを受け入れる、自分の話を相手に分かりやすく伝える力を高め、上手なコミュニケーションにつなげることが必要であると考えた。

(1) 「聴き方・話し方ステップシート」の利用

あたたかい聴き方・わかりやすい話し方を段階的に示したステップシートを提示することで、今の自分たちができていること、次に何ができればよいのかを具体的な姿としてイメージできるようにした。以下は他校の実践を参考にしたステップシートである。

聴き方	年					ステップ	話し方	年										
	1	2	3	4	5			1	2	3	4	5	6					
						STEP 10	話合いの論点に沿って自分の出番を考えて話す								★	★		
						STEP 9	例を挙げて、自分の考えを話す									★	★	
課題に沿った話合いができていのか考えながら聴く					★	★	STEP 8	聞き手の反応を確かめながら話す							★	★	★	
話し手の意図や目的を考えながら聴く				★	★	★	STEP 7	友達の考えを詳しく話す							★	★	★	★
話し手の言いたいことを分かって聴く			★	★	★	★	STEP 6	結論から述べ、根拠を明らかにして話す							★	★	★	★
自分の考えと比べながら聴く			★	★	★	★	STEP 5	わけを付けて話す							★	★	★	★
友達の考えをふくしょうできるように聴く		★	★	★	★	★	STEP 4	じゅんじょよく話す							★	★	★	★
うなずいたりつぶやいたりしながら聴く	★	★	★	★	★	★	STEP 3	みんなのほうをむいて話す	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
人の話をさいごまで聴く	★	★	★	★	★	★	STEP 2	みんなに聞こえるような声の大きさと話す	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
話す人の方を見て聴く	★	★	★	★	★	★	STEP 1	しめいされたら「はい」とへんじをする	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★

小学校6年間を通してあたたかい聴き方・わかりやすい話し方を身につけていくことが大切である。対象は小学校1年生であったため、「あたたかい聴き方・わかりやすい話し方」のSTEP3を示し、定着を図った。以下は実際に児童に提示した目標である。

<p><聞くこと> 話し手の方を向き、うなずいたりつぶやいたりしながら、あたたかく話を聞く。</p> <p><話すこと> 聞き手の方を向き、相手に聞こえる声の大きさと、伝えようとする気持ちをもって話す。</p>

年間を通して、教科を問わずどの授業でも、児童が上記の目標を意識できるように声をかけたり、できた姿を認めたりすることを継続した結果、多くの児童がSTEP3の聴き方・話し方を身につけることができた。特に、できている児童をモデルとして全体の前で紹介することは大変効果があり、目指す姿がだんだんと浸透していった。また、児童によっては「わけを付けて話す」「順序よく話す」などの次のステップを意識している様子が見られることもあった。学級全体で「あたたかい聴き方・わかりやすい話し方」を大事にしている雰囲気があり、多くの児童が「相手の話を聴いて思いを受け入れる、自分の話を相手に分かりやすく伝える力」の基礎を養うことにつながったと感じる。

(2) 考えの広がりや深まりを促す交流の場の工夫

授業の中でクラスメートと交流する場を設定することは、自身の考えを広げたり深めたりすることにつなが

る。研究仮説の中の「他者とのかかわりの中で」の部分を実現化するために、ペアやグループ、全体での交流などいろいろな形で交流の場を設定した。

算数科の授業では、引き算の計算の仕方についてブロックなどの具体物を使って考え、説明する学習の際に、個人→ペア→全体の流れで学習を進めた。以下は授業の事後研で出た成果と課題である。

<成果>

- ペア→全体交流の流れにすることで、子ども達が自信をもって説明する姿が見られた。
- ペア学習で「まず、いぬが8ひきいるよね?」「うん。」「ねこが5ひきだよね?」「うん。」というように確認しながら話し合っていた。
- 相手の説明に納得できていないところは「この問題は引き算じゃないの?」と質問することができていた。
- 全体でいろいろな考えをシェアできたことで、一人ひとりの考えの深まりにつながった。
- 全体交流での話し方、聞き方が身に付いてきている。聞き手のほうを見て話す、わかったか途中で確認する、話し手のほうを見て聞く、うなずいたりつぶやいたりして反応するなど、多くの児童ができていた。
- 最初バラバラにブロックを置いていた児童が、ペア学習でブロックを縦に積んで相手に説明する姿が見られた。
- 1人で考えていた時にブロックを動かさなかった児童が、友達の話を聞いて「色違いで並べればよい」ということに気づき、ブロックを並べ直して数の差を比べようとする姿が見られた。

<課題>

- 全体の話し合いに比べてペアで話し合う時の手順が習得できていなかったため、全体交流がメインでもよかったかもしれない。
- 児童の思考の流れに任せる部分が多かったため、話し合いに時間がかかり、授業内に解決まで進むことができなかった。途中で教師が軌道修正し、時間内に完結させることも必要だと感じた。

児童の思考の流れに沿うことを重視したため、教師の介入が必要な場面もあったという課題もあったが、総合的には、児童たち自身で課題を解決しようという意識が育ち、あたたかい聴き方・わかりやすい話し方の基礎が身についていたとの評価であった。

4 おわりに

豊かな国際性を養うために①文化理解の視点、②他者理解の視点の2つを意識して授業づくりや実践を行ってきた。文化理解の視点においては、現地の素材を活用したり、体験的な活動を取り入れたりすること、他者理解の視点においては、他者とのかかわりの中で相手の考えを聞き自分の考えを表現する活動を取り入れることが、「違いや多様性を受け入れて互いの国や文化を尊重することができる」という国際性の基礎を養うことにつながったと考える。派遣中の3年間でたくさんの貴重な経験を積むことができた。これらの実践や経験を、国内の学校での教育活動に活用していきたいと思う。